

開催地名	愛知県 豊橋市
開催日時	令和6年7月28日(日)10:00~11:30
開催場所	屋内集会所
語り部	池田 雅彰(大阪府吹田市)
参加者	豊橋市民25人(15歳~22歳)
開催経緯	豊橋市役所が主催する「アオハル防災キャンプ」において企画運営をする実行委員メンバー(学生)から災害について詳しく知っている人からの直接の声が聴きたいと提案されたため。
内容	<p>■ はじめに</p> <p>本講演では、大阪府吹田市東消防署に所属し、約40年間にわたり消防活動に従事してきた池田雅彰氏が、災害時の対応や防災意識の向上について語った。池田氏は、特に救助隊としての経験が長く、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震の3つの大震災に緊急消防援助隊として出動した経験を持つ。</p> <p>講演では、池田氏が「防災は知識を得るだけでなく、実際の行動が重要である」と強調し、災害時の判断力や行動力を養うことの必要性を訴えた。</p> <p>■ あの日のこと</p> <p>池田氏は、自身が経験した3つの大地震について、それぞれの特徴や教訓を共有した。</p> <p>◇阪神淡路大震災(1995年1月17日)</p> <p>発生時の状況</p> <p>阪神淡路大震災は、午前5時46分に発生し、兵庫県を中心に甚大な被害をもたらした。死者は6,434人、負傷者は約4万人に上り、建物の全壊・半壊が多数発生した。高速道路の倒壊やビルの崩壊など、大規模な物的被害も発生した。</p> <p>消防活動の課題</p> <p>消火栓の破損により消火活動が困難を極め、消防隊は水槽車を活用しながら消火活動を行った。当時は緊急消防援助隊の体制が未整備で、応援活動に統一性がなかったことが課題となった。</p> <p>住民の対応</p> <p>避難所には多くの住民が集まったが、物資の不足が深刻であった。1週間後には住民同士で炊き出しを行うなど、共助の力が発揮された。この経験を契機に、防災ボランティアの制度が発展した。</p> <p>◇東日本大震災(2011年3月11日)</p> <p>発生時の状況</p> <p>東日本大震災は、午後2時46分に発生し、マグニチュード9.0の巨大地震が東北地方を襲った。それに伴い大津波が発生し、甚大な人的・物的被害をもたらした。死者・行方不明者は約2万人に上った。</p> <p>緊急消防援助隊の出動</p> <p>発災当日の20時に、大阪府の消防隊が集合し、東北へ向けて出発した。31時間かけて岩手県釜石市・大槌町へ到着し、徒歩で大槌町に入り、要救助者の捜索を開始した。</p> <p>津波の被害の大きさ</p> <p>海沿いの建物はほぼ全壊し、残っていたのは鉄筋コンクリートの建物のみであった。津波の押し流す力により、多くの住民が犠牲となり、特に近所の助けがないと避難が難しかった高齢者の被害が目立った。</p> <p>生存率の低さ</p> <p>津波によって建物ごと流されたケースが多く、助かる可能性は極めて低かった。「避難できていれば命を守れた」という教訓が強調された。</p> <p>◇熊本地震(2016年4月14日・16日)</p> <p>発生時の状況</p> <p>4月14日に震度6.5の地震が発生し、その2日後の16日に本震(マグニチュード7.3)が発生した。内陸型地震であり、活断層のずれによって地震が発生し、多くの住宅が倒壊した。</p> <p>防災意識の変化</p> <p>本震が2日後に発生したため、避難生活の長期化が課題となった。また、気象庁は「大地震発生</p>

後1週間以内に同規模の地震が発生する可能性がある」と警告するようになり、「想定外のことが起こる」という意識を持つことの重要性が改めて認識された。

■ その後のこと

避難行動の見直し

「避難は迅速に、自らの判断で動くことが重要である」との教訓が得られた。住民の「正常性バイアス」により避難が遅れ、被害が拡大した事例が多かった。釜石市では、中学生が率先避難者となり、多くの住民を津波から救った事例も紹介された。

避難所運営の改善

災害発生直後の避難所では、食料・水・トイレの問題が深刻化した。また、避難生活が長期化すると、精神的なストレスや衛生環境の悪化が課題となるため、避難所に依存しすぎず、次の住居へ移行する重要性が指摘された。

防災意識の向上

定期的に避難訓練を行い、実際の避難行動をシミュレーションすることが必要である。自治体の防災計画を確認し、住民自身が備えを進めることが重要であり、ハザードマップを活用し、自宅や学校周辺のリスクを把握する必要がある。

■ まとめ

池田氏は、これまでの経験を踏まえ、以下の点を強調した。

1. 迅速な避難行動の重要性

「まだ大丈夫」と思わず、早めに避難することが命を守る。特に津波のリスクがある地域では、地震発生後すぐに高台へ逃げる必要がある。

2. 地域の共助の大切さ

災害発生時、消防や自衛隊がすぐに救助できるとは限らない。近隣住民が協力して助け合う「共助」の重要性が強調された。

3. 日常生活の中で防災意識を高める

家具の固定や非常持ち出し袋の準備をしておくことが推奨された。また、防災訓練や地域活動に積極的に参加することが大切である。

4. 正常性バイアスを克服する

「自分は大丈夫」という思い込みを捨て、災害が起きたら即行動することが求められる。避難行動を事前に決めておくことで、迷わず動けるようにすることが重要である。

最後に池田氏は、「防災は特別なことではなく、日常の延長として意識し続けることが重要である」と述べ、講演を締めくくった。



開催地より

貴重なお話が聞けて良かった。今現在身近で大きな災害が発生していないだけで、いつ起こるか分からない災害時にすぐに行動が起こせるように準備をしていきたい。